

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	人形浄瑠璃等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	かぶしがいいしやうずのくにみなみあわじ		
	制作団体名	株式会社うずのくに南あわじ		
	代表者職・氏名	代表取締役 宮地 勇次		団体ウェブサイトURL
				https://uzunokuni.com/
	制作団体所在地	〒 656-0503	最寄駅(バス停)	福良バス停留所
		兵庫県南あわじ市福良丙947-22		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	あわじにんぎょうざ		
	公演団体名	淡路人形座		
	代表者職・氏名	代表取締役 宮地 勇次		団体ウェブサイトURL
				https://awajiningyoza.com/
	公演団体所在地	〒 656-0501	最寄駅(バス停)	福良バス停留所
		兵庫県南あわじ市福良甲1528-1地先		
	制作団体 設立年月	2004年7月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		取締役会長 飛田 俊紀 取締役 松本 英人 取締役 堀井 佳和 取締役 喜田 憲和(南あわじ副市長)	役員4名、正社員約70名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	興津 徳也
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	森川 由紀
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		awajiningyoza@uzunokuni.com		0799520260

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	【昭39】淡路人形座設立 【昭44】淡路人形浄瑠璃育成保存会設立 【昭45】淡路人形浄瑠璃育成保存会を淡路人形協会と改称 【昭51.5.4】淡路人形浄瑠璃が国指定重要無形民俗文化財に指定された 【昭52】淡路人形協会と淡路人形座が合併し、財団法人淡路人形協会となる 【平26.4.1】公益財団法人に移行 【令6.4.1】淡路人形座が株式会社うずのくに南あわじへ経営移管となる
	学校等における公演実績	2015年 高砂市立高砂小学校、香住町中央公民館 2016年 姫路市立大塩小学校、明石市市民会館、渋谷区文化総合センター大和田 2017年 淡路市立学習小学校、姫路市立大津茂小学校、国立劇場 2018年 丹波市立ライブピアいちじま、白河市文化交流館、草加市文化会館、伊丹市立伊丹高等学校、姫路市立網干西小学校、稲美町立母里小学校、北海道平取町内小中学校、札幌市こどもの劇場やまびこ座、兵庫県立津名高等学校 2019年 兵庫県立洲本高等学校 2020年 兵庫県立西宮東高等学校 南あわじ市立北阿万小学校 洲本第一小学校 2021年 兵庫県立高砂高等学校 淡路市立志筑小学校 南あわじ市立辰美小学校 神戸市立高羽小学校 淡路島内小中学校ワークショップ多数 奈良県生駒市立生駒南第二小学校 2022年 宝塚市立良元小学校 神戸市立魚崎小学校 神戸市立西須磨小学校 神戸市立住吉小学校 神戸市立御影北小学校 2023年 GINZA SIX能楽堂 サントリー美術館 神河町中央公民館 渋谷区文化総合センター大和田 兵庫県立芸術文化センター 2024年 近畿大学附属高等学校・中学校芸術鑑賞会 兵庫県民芸術劇場(姫路市立置塩小学校) 兵庫県民芸術劇場(上郡町立高田小学校) 兵庫県民芸術劇場(兵庫県立太子高等学校)
	特別支援学校等における公演実績	2012年 長崎県大村支援学校 2014年 北海道八雲養護学校 2019年 兵庫県立あわじ特別支援学校

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/12r2Cr0nQy0 https://youtu.be/ZnHaNyK-uSo	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名

淡路人形座

】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

○

企画名

500年の伝統芸能～「淡路人形浄瑠璃」って楽しいよ！

企画のねらい

人形浄瑠璃は、太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの三業が一体となった総合舞台芸術です。本事業では、人形浄瑠璃独自の三業の体験を通して子どもたちのコミュニケーション能力や想像力、思考力を豊かにします。
公演鑑賞では、人形浄瑠璃を伝承するプロの劇団員が演じる日本の伝統芸能を、間近で生で見ることにより、子どもたちはその魅力をダイレクトに感じることが出来ます。また、鑑賞体験を通じ、子どもたちが舞台芸術に興味関心を持つことで、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操や感受性を養うことができ、鑑賞能力をより高めることが期待できます。

演目概要・演目選択理由

【戎舞】

五百年の歴史と伝統を誇る、国指定重要無形民俗文化財の淡路人形浄瑠璃。淡路島の人形操りの起源については、諸説ありますが、中世に摂津国西宮(現在の兵庫県西宮市)のエビスカキと呼ばれる傀儡師(くぐつし・人形遣い)が島に移り住み伝承したと伝えられています。エビスカキは、西宮戎神社の信仰を広めるため、戎神の人形を舞わせご祈禱し、お札を配って歩いた芸能集団で、江戸時代の文献にもこの傀儡師の移行があったことが記されています。これが今日まで伝承されている「戎舞」です。島内でも昭和 初期までこの風習が続き、各家には座本名の入ったお札も現存しています。
劇中では、福の神・戎さまが庄屋の家にやって来て、振る舞い酒の杯を重ね、生い立ちなどを語りながら舞い踊ります。その後、舟で沖に出て大きな鯛を釣りあげるといってお話です。
中世から伝承され、その様式美を今に伝える「戎舞」には、戎顔でおおらかな心を持ち、どんな困難にも前向きに生きていくという庶民の幸せへの祈りが込められています。戎さまは庶民の願い事を叶えようと、御神酒を飲み、祈り、そして幸せを運びます。酔っ払った戎さまは、心豊かに楽しく笑いも交え、表現力豊かに本当に命が宿っているように舞います。その単純でわかりやすい内容は、幅広い年齢層に理解していただけます。

【本朝廿四孝 奥庭狐火の段】

本作は、近松半二・三好松洛・竹田因幡・竹田小出・竹田平七・竹本三郎兵衛の合作で、人形浄瑠璃をはじめ歌舞伎、日本舞踊等で演じられる人気の演目です。全五段の時代物で明和3年(1766)1月より大坂の竹本座での初演以降、人気外題のひとつに名を連ねました。中でも「奥庭狐火の段」は、三味線と連れ弾きや琴が奏でる名曲「狐火」と、人形と人形遣いが一瞬で衣装の早替りをする演出がみどころで、視覚的にも音楽的にも優れ、人形芝居独特の華やかな魅力が溢れる演目です。
あらすじは、甲斐の武田信玄と、越後の上杉謙信は長年にわたり敵対しており、それを憂いた將軍足利義春が両家に和睦を命じ、信玄の子・勝頼と、謙信の子・八重垣姫の婚儀が決まりました。しかし、將軍が何者かに暗殺され、両家に疑いがかかりました。両家は犯人を見つけ出せなかったために、勝頼は切腹を命じられます。悲しみに暮れる八重垣姫でしたが、死んだのは偽者で、本物の勝頼は花作りに身をやつて生きていたことを知ります。父謙信もその秘密を知り、勝頼に刺客を差し向けるのでした。八重垣姫はそのことを勝頼に知らせようと思いますが、姫の足では刺客に追いつけず、おまけに諏訪湖は凍っているため船を出すこともできません。そこで奥御殿に祀った諏訪明神の力が宿る武田家の重宝・諏訪法性の兜にお祈りすると、不思議な事に狐が現れます。八重垣姫はこの兜を手にして、ここかしこに燃え立つ狐火を力に、飛ぶが如くに勝頼のもとへと急ぎ向かうという内容です。

人形浄瑠璃は、太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの三業が一体となった総合舞台芸術です。本事業では、人形浄瑠璃独自の三業の体験を通して子どもたちのコミュニケーション能力や想像力、思考力を豊かにします。
公演鑑賞では、人形浄瑠璃を伝承するプロの劇団員が演じる日本の伝統芸能を、間近で生で見ることにより、子どもたちはその魅力をダイレクトに感じることが出来ます。また、鑑賞体験を通じ、子どもたちが舞台芸術に興味関心を持つことで、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操や感受性を養うことができ、鑑賞能力をより高めることが期待できます。

①「戎舞」は、中世に起源をもつ人形芝居の原点とも言える様式を伝承する数少ない演目のひとつです。本公演では、「戎さまに御神酒を注ぐ庄屋の使用人役」を子どもたちが実演することで、人形の三人遣いによるコミュニケーションの大切さや意思伝達や行動を表現する方法を学ぶことができます。見ている子どもたちも同様に、どのようにお互いが協力しあえているか、どんな工夫が必要かなどを客観視することで、自己の考えを広げ深める、思いや考えを基に創造したりすることができるようになります。芝居は、単純でわかりやすい内容なので、演じる側も鑑賞する側も、同時に芝居の楽しさが理解でき、幅広い年齢層が積極的に取り組めるため、この演目を選択しました。

②「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」は、人形浄瑠璃、歌舞伎や日本舞踊といった日本を代表する伝統芸能でも演じられる人気の高い名作のひとつです。淡路人形浄瑠璃特有の人形や人形遣いの早替り、三味線と琴の連弾き、華麗で優美な八重垣姫のほかに神の使いの狐がコミカルな動きで登場するなど、アツと驚かせるようなケレン味あふれる演出が盛り沢山の演目で、子どもたちの興味や関心がおのずと高まり、劇中に歓声が上がるほど各地域の学校公演でも好評を得ています。500年の歴史と伝統を誇る淡路人形浄瑠璃の魅力を十二分に感じてもらえることが期待できる演目なので選択しました。

児童・生徒の参加または体験の形態



①「戎舞」の公演では、淡路人形座の座員と一緒に舞台に立って共演していただきます。子どもたちには、戎さまに御神酒を注ぐ庄屋の使用人役の人形を、三人遣いで演じていただきます。また、この演目には、戎さまが人々の願い事を祈る場面があります。事前に子どもたちに願い事を書いてもらい、劇中で太夫がその願い事を語ることで、鑑賞者と演者との一体感が促進され、会場はより一層盛り上がります。

②「人形浄瑠璃教室」では、太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの役割などを体験も交えて解説します。太夫の体験では、全校生で「笑い」をテーマに色々な人物の語り分けを実演していただきます。太夫とともに全員が一斉に声を出して、劇中さながらの義太夫節の体験をすることにより、豊かな情操を育みます。三味線弾きの体験では、子どもたちに手拍子を打っていただき、そのリズムに合わせて技芸員が三味線を演奏します。人形遣い体験では一体の人形を三人で遣う、人形浄瑠璃特有の三人遣いを体験することにより、協調性や表現力、発想力を養うことができます。

③「本朝廿四孝」の公演前に、人形浄瑠璃を楽しく鑑賞する方法を、体験型の手法を用いて分かりやすく説明します。例えば「この場面で一斉に拍手をしてもらうと、より一層、芝居が盛り上がるので、座員の合図に合わせてみんなで拍手をしましょう」といった舞台を盛り上げる全体練習を行いながら、子どもたちと座員とのコミュニケーションを図り、伝統芸能の魅力や醍醐味について学びます。

本公演・ワークショップの内容

児童・生徒の 参加可能人数	本公演			参加・体験人数目安	舞台上での共演は9名程度		
				鑑賞人数目安	500名程度まで		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	人形芝居 「戎舞」 淡路人形に伝わる神事(エビスカキ)を舞台用に脚色した演目 人形浄瑠璃 「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 原作:近松半次・三好松洛他 【プログラム構成】 1. あいさつ 2.人形芝居「戎舞」 上演 3.ワークショップ「人形浄瑠璃教室」 太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの役割を体験も交えてわかりやすく説明します。 (休憩:約10分) 4.「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 上演 5. 質問コーナー ※団体と学校側のスケジュール調整がつけば、クラスごとに座員とのふれあいタイムを設けます。						
	公演時間		90～100	分			
出演者	○太夫(語り) 竹本友里希 竹本友富士 竹本友禧 より2名 ○三味線 鶴澤友勇(2015年重要無形文化財義太夫三味線保持者認定) 鶴澤友弥 鶴澤友秀 より2名 ○人形遣い 吉田新九朗、吉田史興、吉田徳藏、吉田廣の助、吉田光太郎、吉田幸路、 吉田千紅、吉田松永、吉田光希、西口萌香 より7名						
演目の芸術上の中核 となる者(メインキャスト、 メインスタッフ、指揮者、 芸術監督等)の 個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	泉 裕子(鶴澤 友勇) 祖父や父が義太夫節の稽古を受けていた影響で、小学校一年生で福井子供会人形浄瑠璃部に入会し、鶴澤友路に師事。三原 高校郷土部でも活躍。 1985年 淡路人形座に入座 2000年 人形浄瑠璃因協会奨励賞受賞 2013年 第33回伝統文化ポーラ賞地域賞受賞 2015年 重要無形文化財「義太夫節」保持者認定(総合認定) 円山 伸康(吉田 新九朗) 長野県伊那四座人形芝居保存会を指導 1984年 淡路人形座入座 1984年 淡路人形座オランダ・ベルギー公演参加以後海外公演多数参加 1994年 淡路人形座人形主任就任 2002年 淡路人形座小中学校での出張講座参加以後多数参加 2003年 淡路人形座国立劇場公演参加 2010年 淡路文化協会 文化奨励賞受賞 2019年 国立文楽劇場公演参加 記虎 篤史(吉田 史興) 長崎県東彼杵町の人形浄瑠璃保存会、熊本県清和文楽を指導 1987年 淡路人形座入座 1992年 スペイン・ドイツ・ポーランド公演参加以後海外公演多数参加 1995年 南淡中学校郷土芸能部指導開始 2003年 淡路人形座国立劇場公演参加 2017年 淡路人形座国立劇場公演参加						
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 11 名			運搬		積載量: 1,5 t	
	スタッフ: 2 名					車 長: 5.1 m	
	合 計: 13 名					台 数: 2 台	

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間				時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去		退出	
	8:30	8:30～11:00		13:00～15:00	10分	15:00～17:00		17時00分	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。								
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月		
	10月		11月		12月		1月		
					10日		10日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		20日	
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真) ※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡	 <p>図 1</p>		<p>(図 1)</p> <p>体育館フロアに舞台を設置した場合（児 童・生徒の人数が多い場合はステージで上 演する場合もあります。）</p> <p>舞台設置に必要な面積 約 18m × 6m</p>						
	 <p>図 2</p>		<p>(図 2)</p> <p>児童・生徒が座員と戎舞で共演してい る風景</p> <p>事前にワークショップでお稽古をし、 また、公演前にもリハーサルを行い本 番に臨みます。</p>						
	 <p>図 3</p>		<p>(図 3)</p> <p>本朝廿四孝の上演風景</p> <p>人形浄瑠璃とは、物語を語る太夫(たゆう)、 音を奏でる三味線弾き、1体の人形を3人 で操る人形遣いの技が1つになった総合芸 術です。</p> <p>本朝廿四孝では、淡路人形浄瑠璃の得意 とする、人形遣いの衣装や人形が一瞬に して変わる、早替りの演出などで楽しん でいただけます。</p>						
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否			該当なし		該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合		権利者名			許諾確認状況			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

淡路人形座

】

ワークショップの内容

ワークショップのねらい

太夫ワークショップでは、本公演で鑑賞して頂く「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」の主人公、八重垣姫のセリフを練習し、語っていただきます。練習した場面が本番で登場するため、子どもたちは、自分とプロの太夫との違いが目の前の舞台ではっきりと分かるので、より一層の興味や関心を持って鑑賞することができます。普段触れる機会がほとんどない義太夫節を体験し、独特の発声方法や節回しなど古典の面白さや奥深さ、また、複数の人物をひとりで演じる高度な芸芸とその魅力を学んでもらいます。

人形遣い体験では、児童・生徒でも持ちやすいように、軽く扱いやすい人形を用意しています。一体の人形を三人で息を合わせて遣うことにより、協調性や相手への気配りを学ぶことができ、子どもたち相互のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とします。共演では、座員との異世代間の交流によりプロの技術を教わることで、表現方法の工夫や演じることの楽しさ、「本物の舞台芸術」に親しむ貴重な体験の機会となります。

太夫・三味線弾き・人形遣いの三業のワークショップを通じて、伝統芸能ならではの知恵と技の継承を学びます。舞台上で三業を融合させるためには、それぞれが受け持つ役割を理解し演じることで、お互いの連携が非常に重要であることがわかります。自分が伝えたい意思や感情をどのように表現すればよいのか、そのためにどんな工夫や協力が必要なのかなど、子どもの成長にとって必要不可欠な発想力やコミュニケーション能力、豊かな情操を育むとともに、人形浄瑠璃に対する理解や関心を深めることを目的としています。

児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

1学年(100名程度)まで

ワークショップ実施形態及び内容

『淡路人形浄瑠璃のお話』(歴史や太夫、三味線弾き、人形遣いの三業を楽しく、わかりやすく)
①映像を活用し、人形浄瑠璃の歴史、お芝居のあらすじや劇中の雰囲気などをわかりやすく説明します。
②太夫のワークショップでは、義太夫節や独特の発声方法などをわかりやすく説明します。床本(太夫が舞台上で使用する、普段見慣れない特徴のある浄瑠璃文字で書かれた台本)を使い、太夫の発声方法で「武士」「お姫様」「お年寄り」「子ども」などの人物のセリフを語って、その違いを実感していただきます。
③人形遣いのワークショップでは、一体の人形を三人で操作する三人遣い、即ち、頭(カシラ)と右手を遣う「主遣い」、左手を遣う「左遣い」、足を動かす「足遣い」のそれぞれのパートの遣い方や人形本体の構造をわかりやすく説明します。
児童・生徒には、実際に三人一組で人形を遣っていただきます。本公演では、代表9人の児童・生徒に「戎舞」で共演していただきます。
※それぞれの役割が持つ技や表現方法の難しさ、演じることの楽しさを体験しながら、座員と子どもたちとの間にコミュニケーションを醸成していきます。

その他ワークショップに関する特記事項等

担当の先生と事前の打ち合わせを十分行ないます。
基本的に公演の内容変更はできませんが、児童・生徒のみなさんに太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの三業の体験をしてもらえるよう、体験内容についての相談をさせていただきます。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名淡路人形座】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上可(エレベーター必須)		主幹引き込み電源容量		100 A以上	
舞台設置面積		間口	20 m		奥行	6 m	
		高さ	4 m				
舞台設置場所		フロア対応	可		学校のステージでの対応		可
搬入間口の広さ		幅	1.8 m		高さ	1.8 m	
遮光の要否		5割程度必要		緞帳の要否		不要	
ピアノの使用について		使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		条件なし	
				ピアノを使用しない場合の移動の要否		条件なし	
搬入車両(トラック等)の横づけ		応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		10 m以内	
搬入車両の種類		中型トラック		台数	2 台		
搬入車両の大きさ		車幅	1.8 m		車長	5.5 m	
備考							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	なし	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	90分	午前・午後の2時限	共演のお稽古	
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	45分	4時限目	リハーサル	
	本公演					

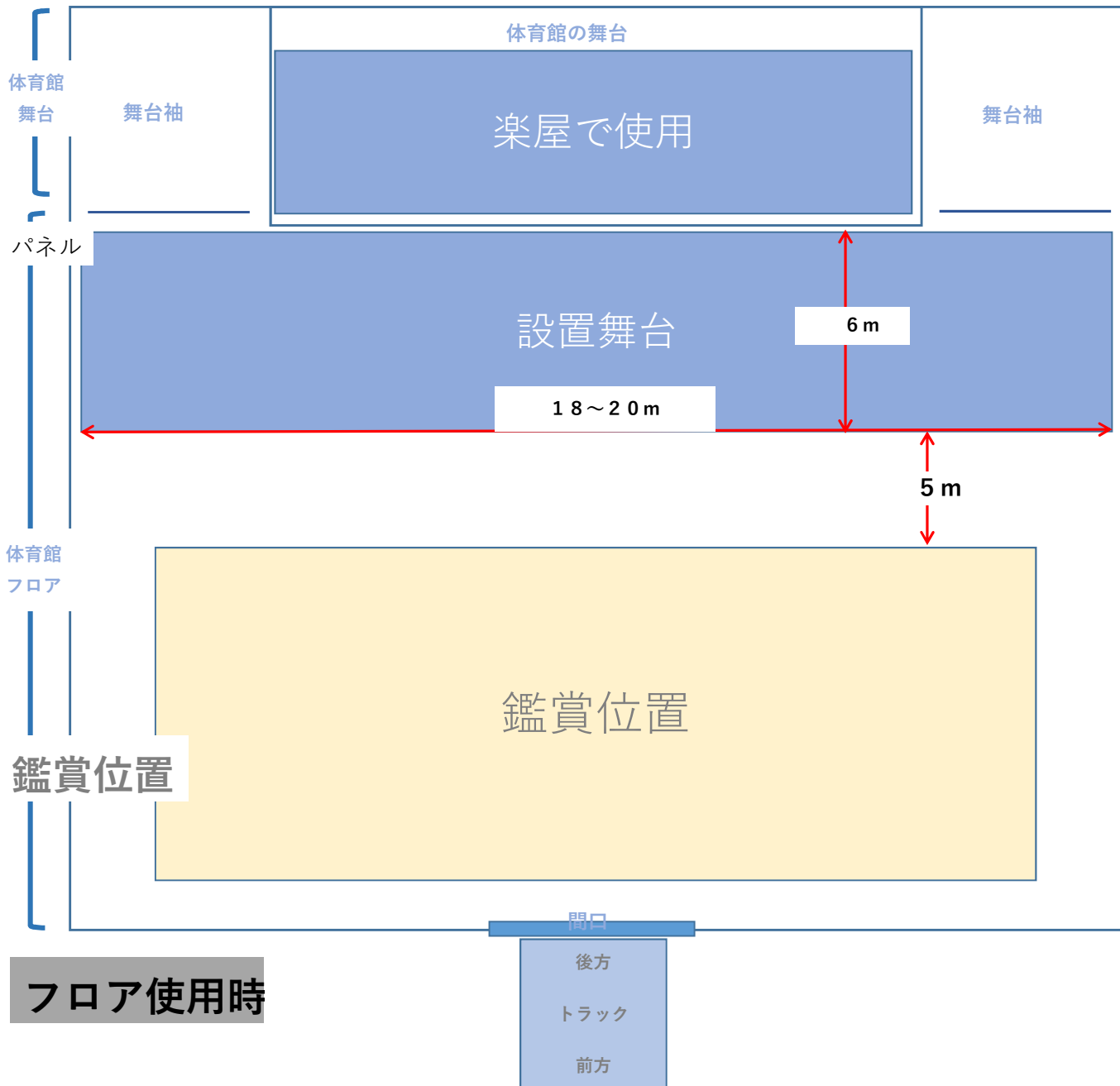
個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	特になし	
	2	特になし	
	3	特になし	

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面



別添

なし

【公演団体名

淡路人形座

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

スマートフォンやタブレットの急速な普及により、インターネットやSNSが当たり前となった情報化社会を生きる子どもたちに、500年の歴史を有し日本を代表する伝統芸能・淡路人形浄瑠璃に触れられる機会をつくることで、日頃味わえない感動や刺激を体験することができ、その経験が、次世代を担う未来の創り手である子どもたちの情操を豊かにし、創造性を育むことで、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につながるものと考えます。

人形浄瑠璃の太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの「三業」を題材としたワークショップでは、子どもたちが自らの手で直接、人形や楽器、道具類に触れます。これらの体験を通じ、子どもたちの知的好奇心を刺激するとともに、感受性豊かな子どもたちの興味や関心を多方面に広げるキッカケとなることが期待できます。

子どもたちが、実際に演じることで体験する人形浄瑠璃の表現活動を通じ、自らの見方や考えを持ち、主体的に行動するなかで他人と協働して物事を創りあげる能力や、失敗を恐れず、はじめてのことや難しいことにチャレンジできる姿勢、様々な困難を克服できる力を育みます。

また、子ども同士や世代の異なる座員との関わりにより、お互いの対話、伝統芸能を伝承してきた先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、子どもたちが自己の考えを広げ深めるとともに、積極的に人間関係を構築することで、コミュニケーション能力が醸成されます。

他人のことを思いやることができ、心豊かな社会づくりに貢献できる子どもたちの人材育成に繋げていけるよう真摯に取り組めます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

また、人形浄瑠璃の太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いとはどのようにコミュニケーションを取りながら、三業を連携・融合させ舞台芸術を創り上げるのか。実際にはどのような仕掛けの舞台で公演しているのかを理解できるよう、子どもたちが事前に人形浄瑠璃のDVDによる鑑賞を行い、公演を鑑賞することが最良であると考えます。鑑賞のほかに1時間程度、事前学習の時間を取っていただくと、より効果的なワークショップや公演が実施できます。

人形浄瑠璃のワークショップや公演鑑賞のための雰囲気作りとして、校内に淡路人形座のポスターを貼ったり、各教室に公演に関するパンフレット等を配置することによって、当日の公演を楽しみに待つ機運が高まり、児童・生徒の好奇心が高められます。

【学校との連絡調整について】

ワークショップや公演事業を行うにあたり、体育館の写真や地図の送付だけでなく、児童・生徒や現場の教職員が希望していることを事前に連絡し合いながら、できる限り、学校側の要望に応えられるよう事業内容を調整するように努めます。担当の先生と事前の打ち合わせを十分行ないます。

基本的に公演の内容変更はできませんが、児童・生徒のみなさんに太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの三業の体験をしてもらえるよう、体験内容についての相談をさせていただきます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

体験にご参加いただく児童・生徒の皆さんに合わせて、黒衣(くろご)衣装のサイズを各学年向けにご用意しております。

また、人形も持ちやすいように工夫されたサイズを使用し、安心して体験いただけるよう配慮しています。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

公演後の学びの機会について

本公演をきっかけに、淡路人形浄瑠璃への理解をさらに深めていただけるよう、資料等を配布し、継続的な学習を支援いたします。

また、後日、学習発表会などで本公演の体験を発表される際には、淡路人形を無償で貸し出しいたします。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫